

II 調査の結果

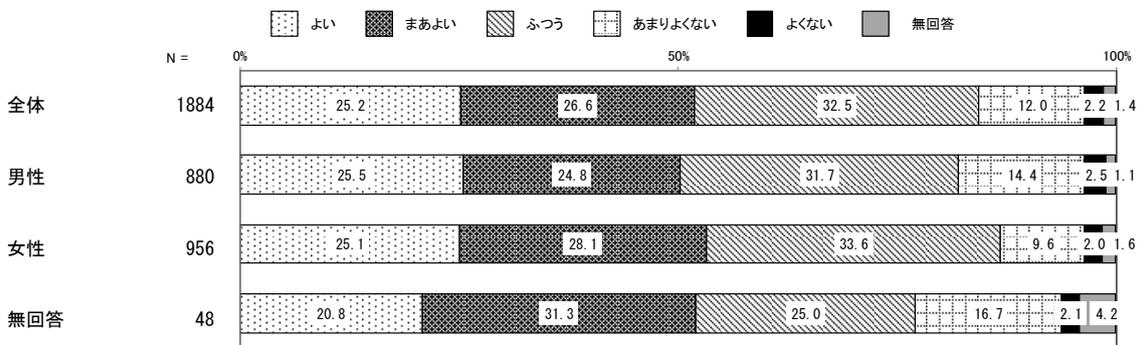
調査票 A (20 歳以上対象)

1 現在の健康状態

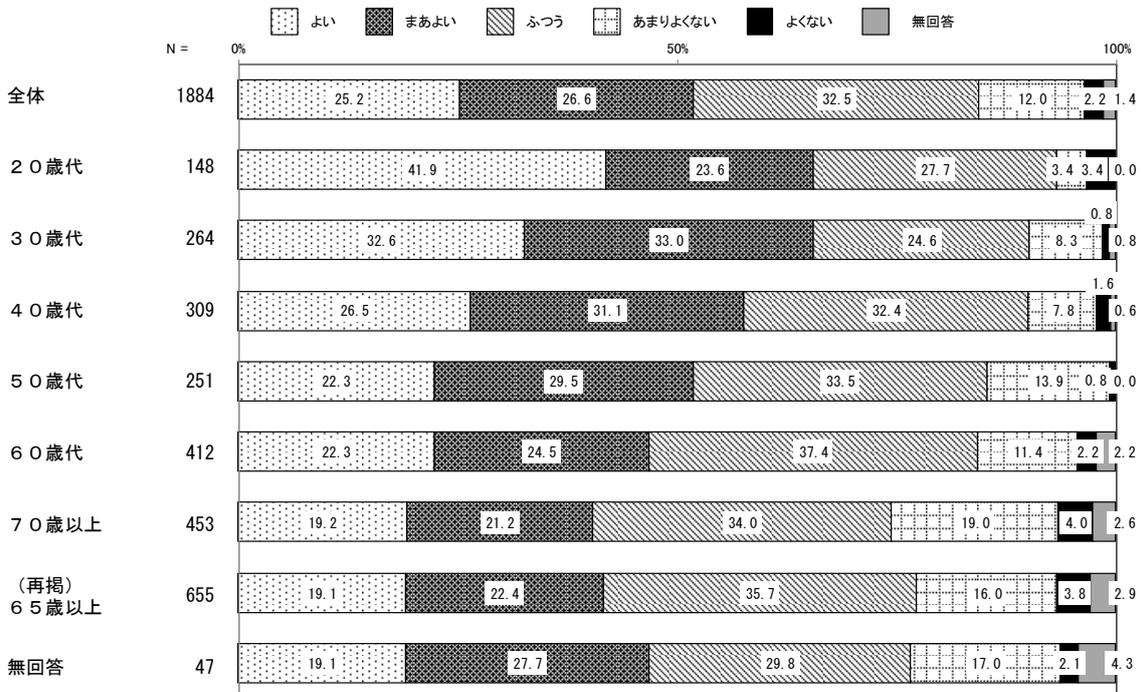
問1 あなたの健康状態はいかがですか。(○印は1つ)

1 よい 2 まあよい 3 ふつう 4 あまりよくない 5 よくない

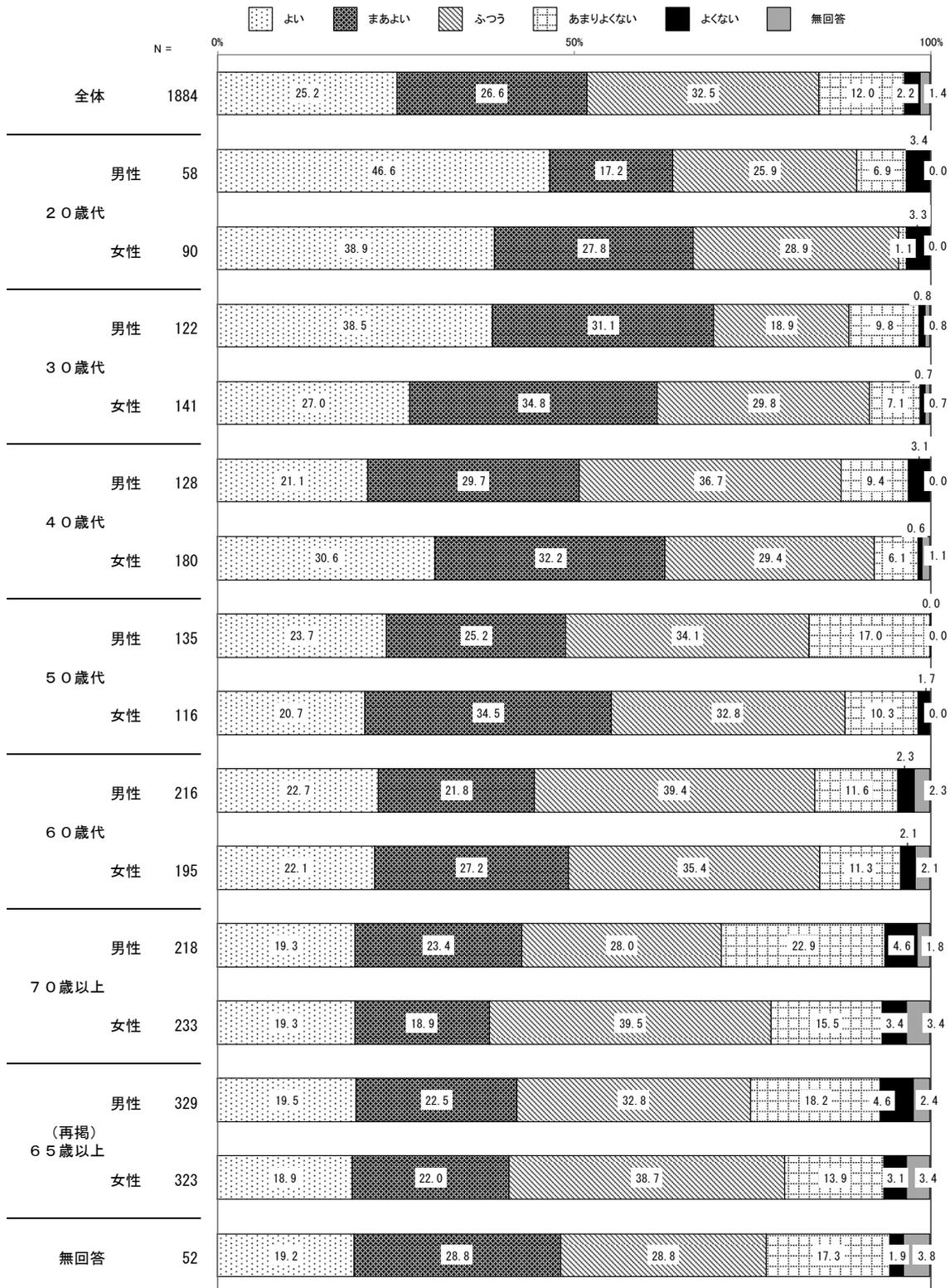
- ・現在の健康状態について、全体の約半数が「よい」「まあよい」としている。
- ・性別でみると「よい」「まあよい」とした回答が男性 50.3% 女性 53.2% となっており女性の方が高くなっている。



- ・年代別では、年代が高くなるにつれて「よい」「まあよい」の割合が低くなる傾向がある。



- ・性年代別でみると、男性 30 歳代で健康状態が「よい」と「まあよい」の合計が 69.6 %で最も高くなっており、逆に「よくない」「あまりよくない」の合計は男性 70 歳以上が 27.5%で最も高くなっている。
- ・40 歳代をみると、「よい」「まあよい」が男性 50.8%で女性 62.8%と女性の方が 12 ポイント高くなっている。

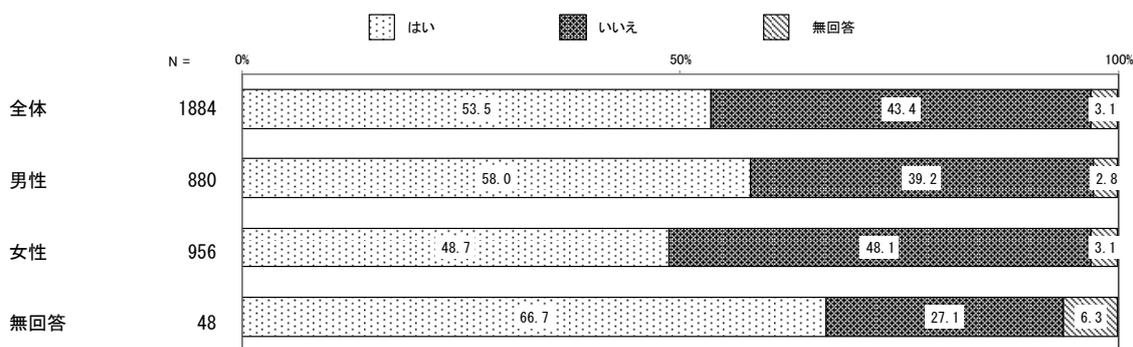


2 既往歴の有無

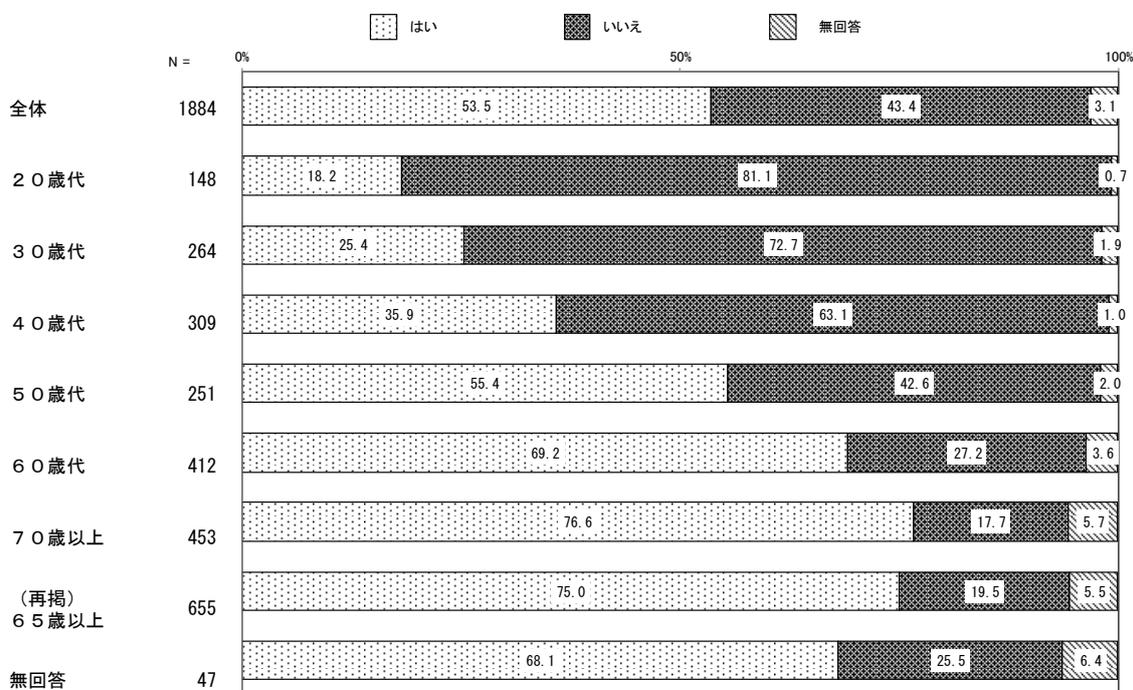
問2 あなたは、今までに下記(問2-1)のような病気にかかったことがありますか。

1 はい 2 いいえ

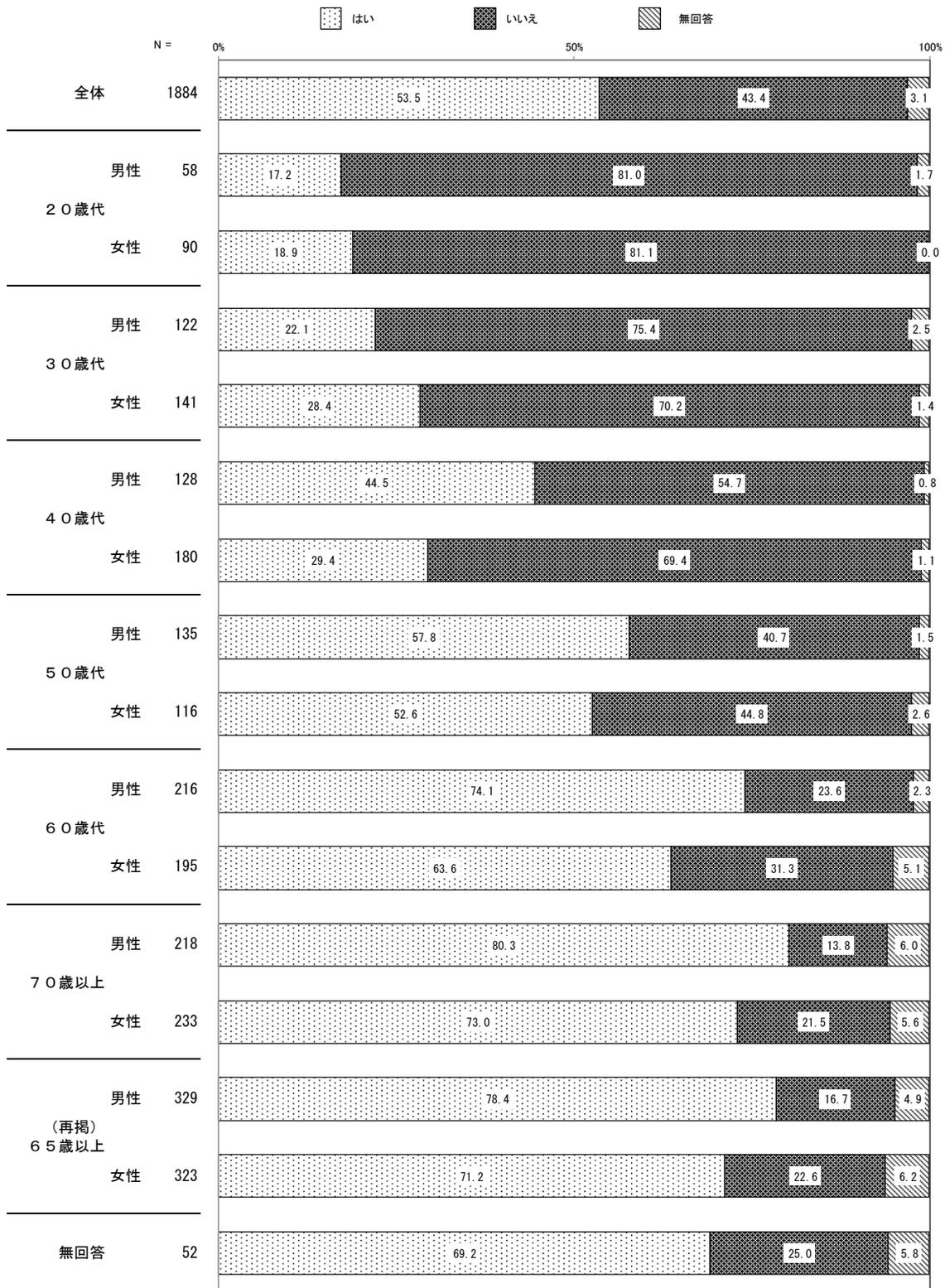
- ・全体の5割以上に罹患経験があり、性別に見ると男性(58.0%)が女性(48.7%)より約10ポイント高くなっている。



- ・年代別では、年代が高くなるにつれて、罹患経験も高くなっており、特に40歳代(35.9%)と50歳代(55.4%)の間で約20ポイント上昇している。



- ・性年代別にみても、男女ともに年代が高くなるにつれて罹患経験者の割合も高くなっている。
- ・性年代別で見ると男性では30歳代（22.1%）と40歳代（44.5%）、女性では40歳代（29.4%）と50歳代（52.6%）の間で罹患経験者の割合の上昇率が他の年代間と比べ高くなっている。



3 既往歴

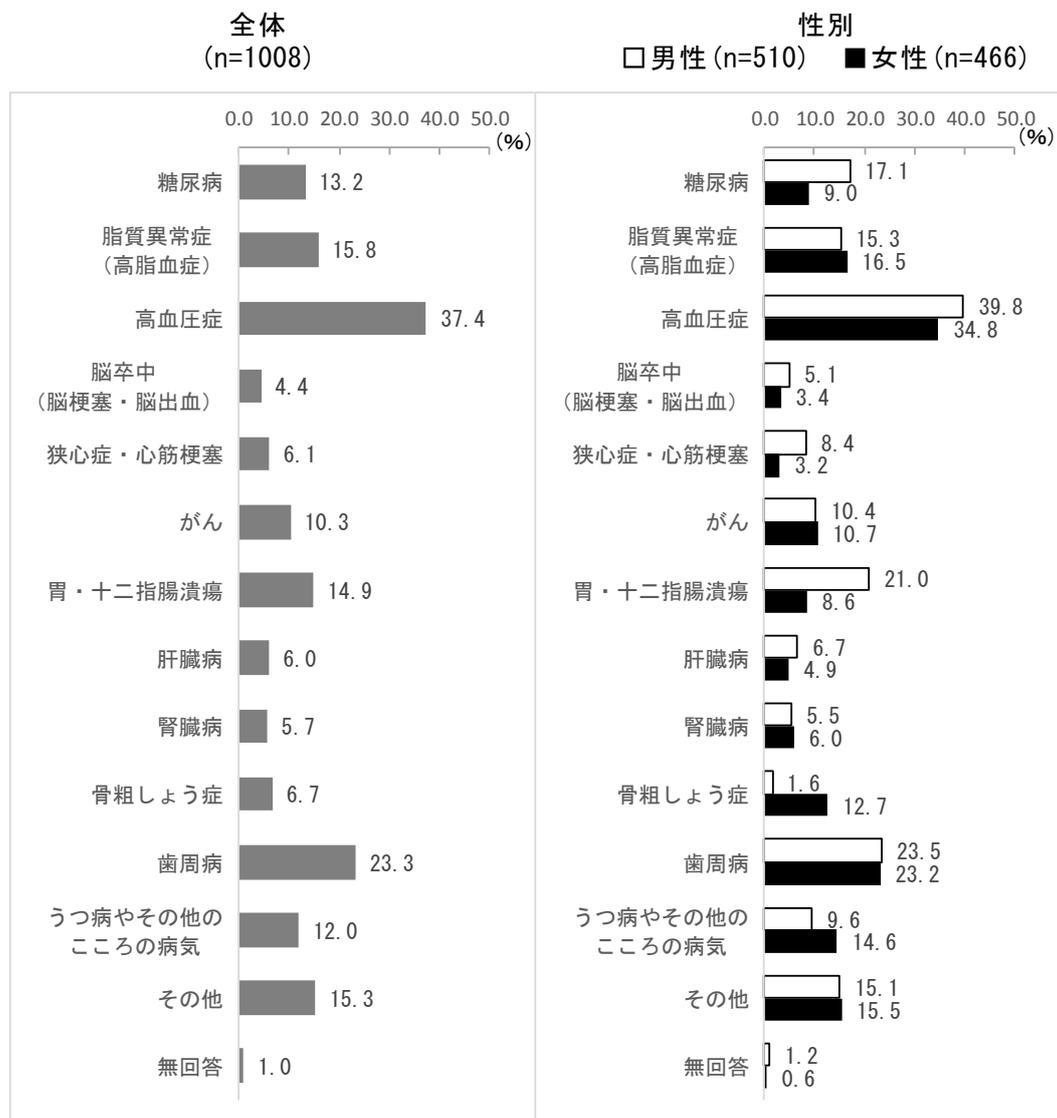
<問2で「1 はい」と回答した方におたずねします。>

問2-1 かかった病気すべてに○印をつけてください。

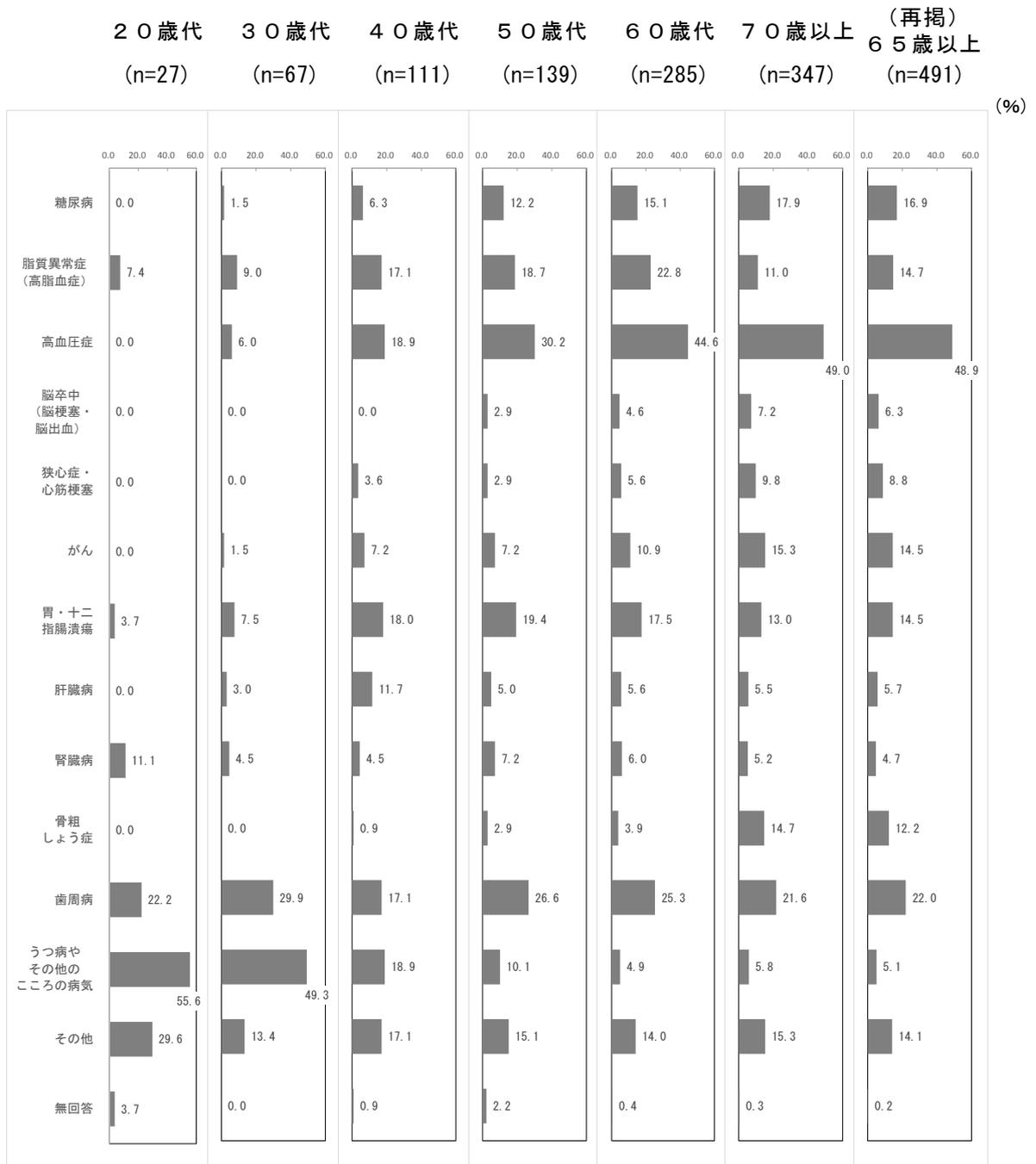
(現在治療中のものも含まます。)

- 1 糖尿病 2 脂質異常症 (高脂血症) 3 高血圧症 4 脳卒中 (脳梗塞・脳出血) 5 狭心症・心筋梗塞
6 がん 7 胃・十二指腸潰瘍 8 肝臓病 9 腎臓病 10 骨粗しょう症 11 歯周病
12 うつ病やその他のこころの病気 13 その他

- ・罹患したことがある病気は、「高血圧症」が37.4%で最も高く、次いで「歯周病」が23.3%、「脂質異常症」が15.8%と続いている。
- ・性別で見ると、「胃・十二指腸潰瘍」は男性が21.0%、女性が8.6%で男性が女性よりも10ポイント以上上回っており、「骨粗しょう症」は男性が1.6%、女性が12.7%で、女性が男性を10ポイント以上上回っている。



- ・年代別でみると、「糖尿病」「高血圧症」「脳卒中」「がん」「骨粗しょう症」は、年代が高くなるほど罹患率が高くなっている。また、20歳代と30歳代では、他の年代に比べ「うつ病やその他のこころの病気」を罹患している割合が高くなっている。

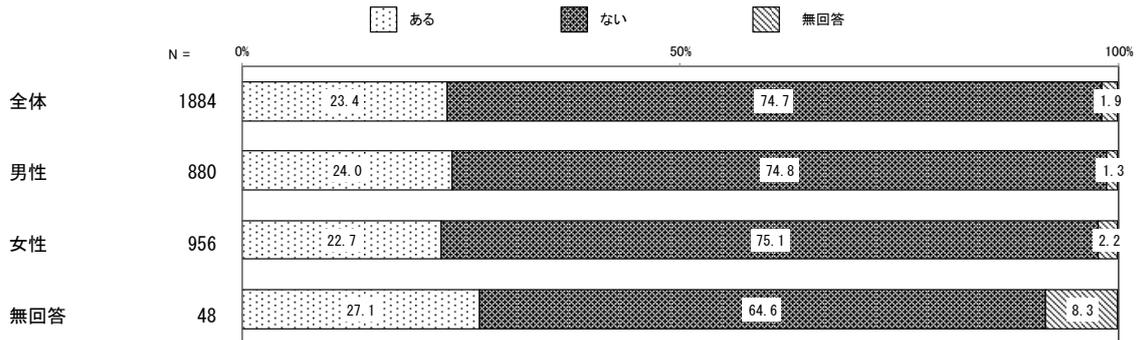


4 健康上の理由による不安・生活変化の有無

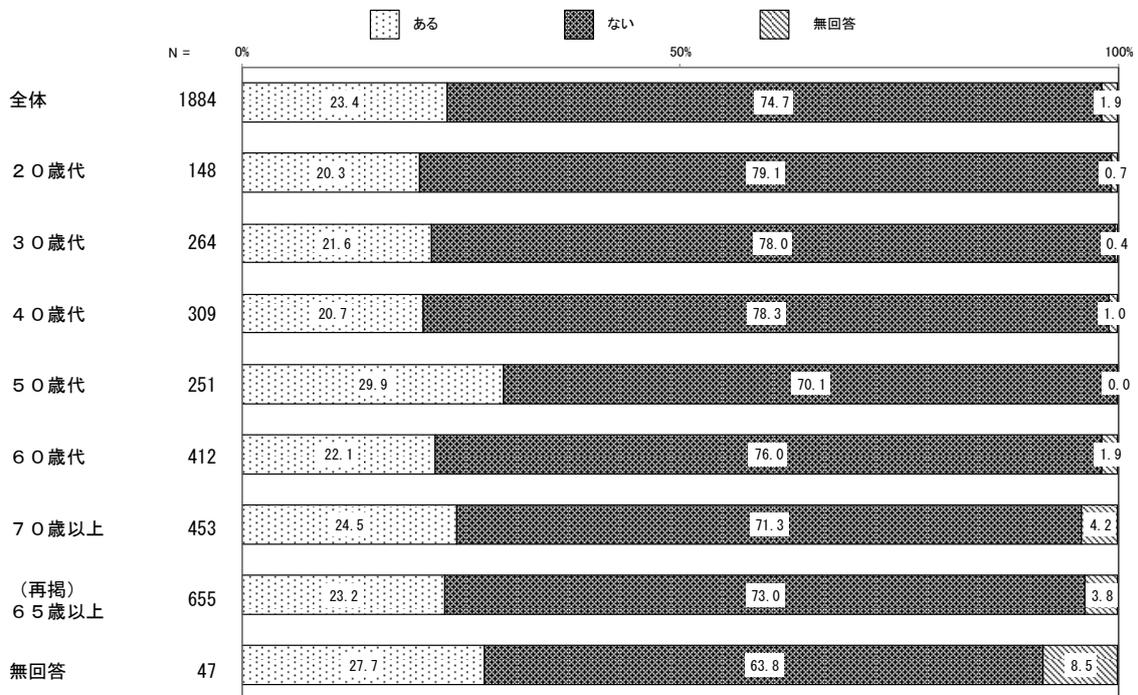
問3 あなたはこれまで、健康上の理由（病気や身体の障害）で仕事や学業について不安を感じたり、その後の生活に変化を与えたりするような出来事を経験したことがありますか。

1 ある 2 ない

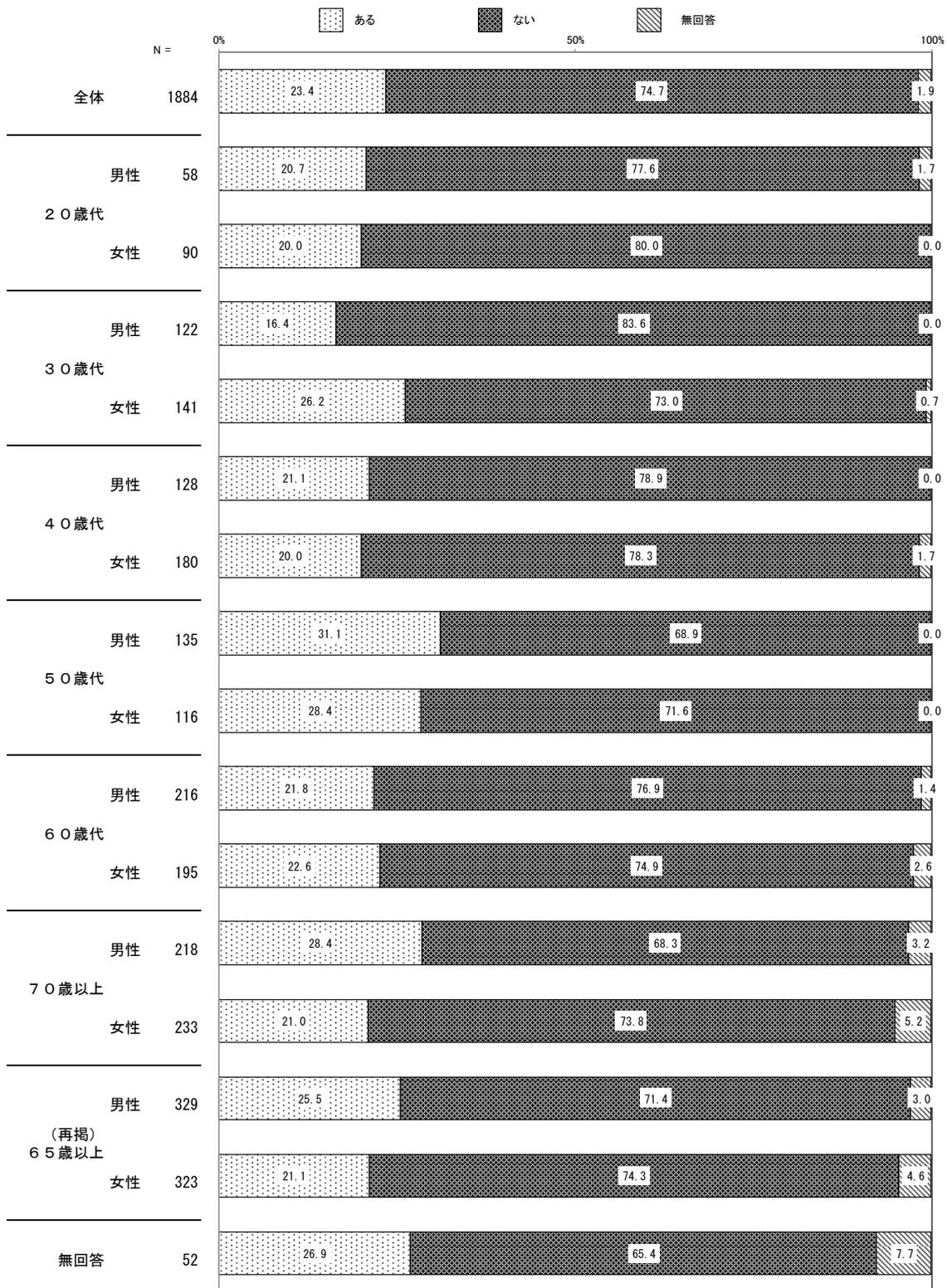
・健康上の理由で感じた不安や生活変化の経験について、全体の2割強が「ある」と回答し、男女の間で大きな差は見られなかった。



・年代別で見ると、「ある」と回答した割合は50歳代が29.9%で最も高く、2番目に高い70歳以上（24.5%）よりも約5ポイント高い。



- ・性年代別では、「ある」と回答した割合は男性 50 歳代が 31.1%で最も高く、次いで男性 70 歳以上、女性 50 歳代の 28.4%と続いている。一方、男性 30 歳代は 16.4%と最も低い。



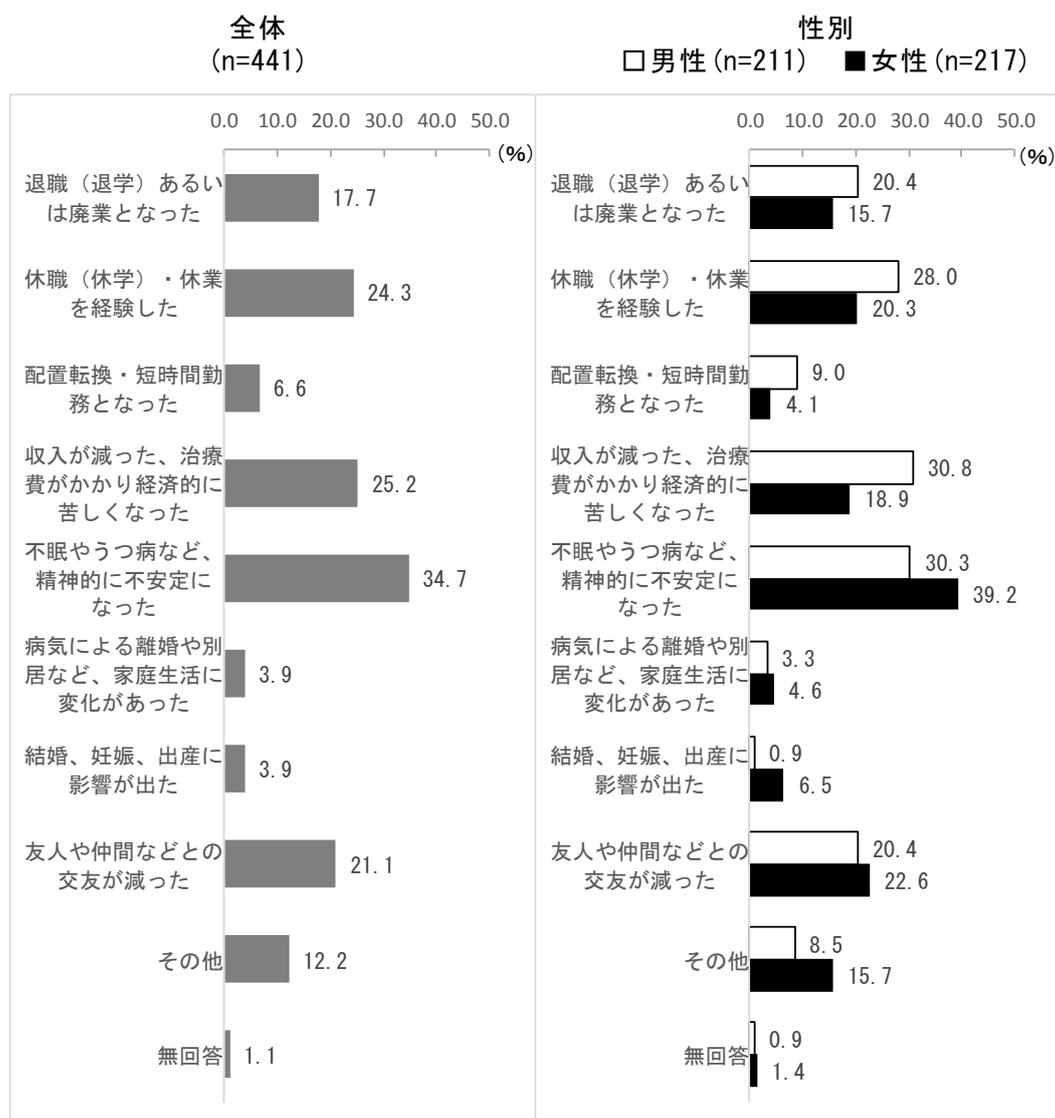
5 不安・生活変化の内容

<問3で「1 ある」と回答した方におたずねします。>

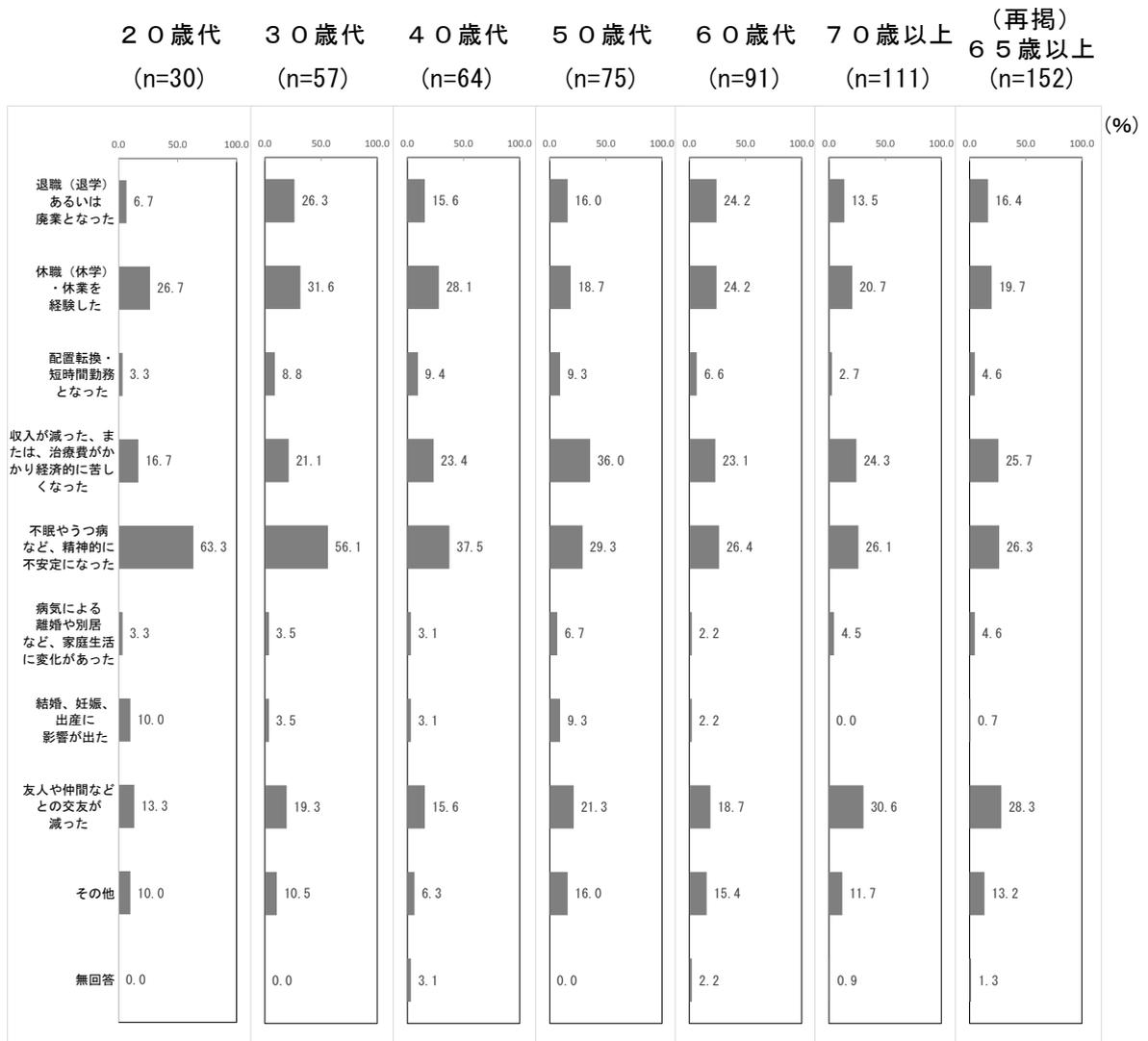
問3-1 それはどのような出来事でしたか。(複数回答可)

1 退職(退学)あるいは廃業となった 2 休職(休学)・休業を経験した
 3 配置転換・短時間勤務となった 4 収入が減った、または、治療費がかかり経済的に苦しくなった
 5 不眠やうつ病など、精神的に不安定になった 6 病気による離婚や別居など、家庭生活に変化があった
 7 結婚、妊娠、出産に影響が出た 8 友人や仲間などとの交友が減った 9 その他

- ・健康上の理由で感じた不安や生活変化の経験の内容は、全体では「不眠やうつ病など、精神的に不安定になった」が34.7%と最も高くなっている。
- ・性別でみると「収入が減った、または、治療費がかかり経済的に苦しくなった」と回答した割合は男性が30.8%、女性が18.9%と男性が女性に比べて約12ポイント高く、「不眠やうつ病など、精神的に不安定になった」と回答した割合は男性が30.3%、女性が39.2%と女性が男性に比べて約10ポイント高くなっている。



- ・年代別でみると、「不眠やうつ病など、精神的に不安定になった」は20歳代で最も高く、年代が高くなるにつれて減少している。

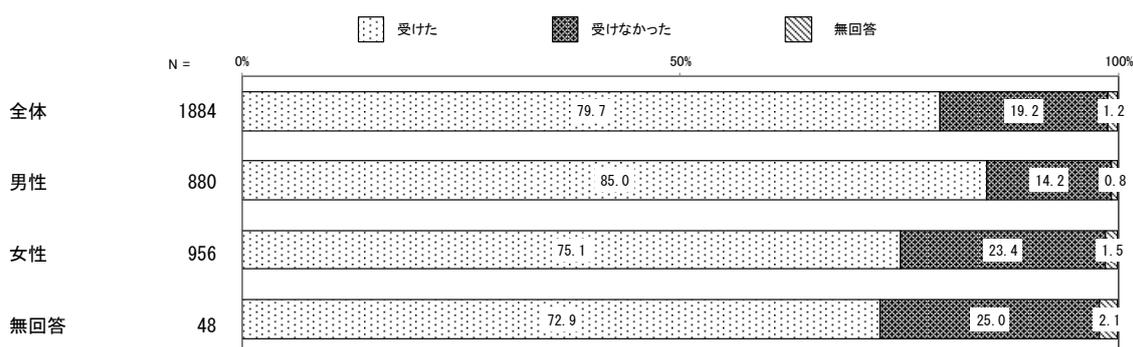


6 健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの過去1年間の受診状況

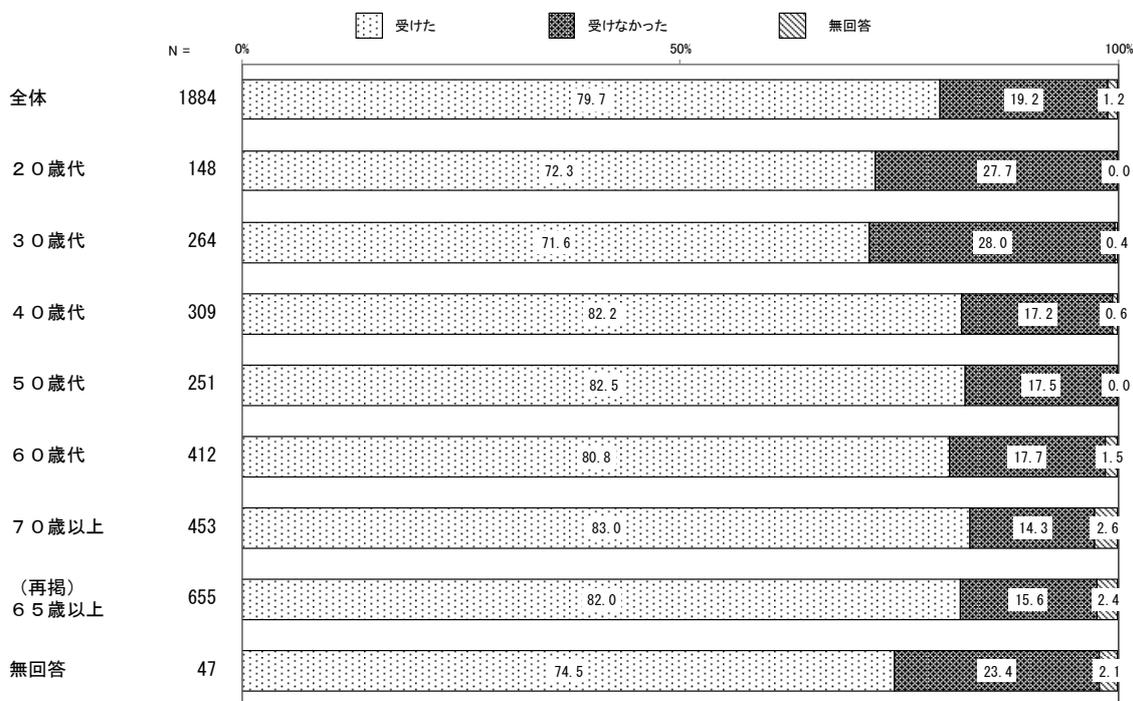
問4 あなたは、過去1年間に、健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けましたか。（血液検査、尿検査、心電図検査等）

1 受けた 2 受けなかった

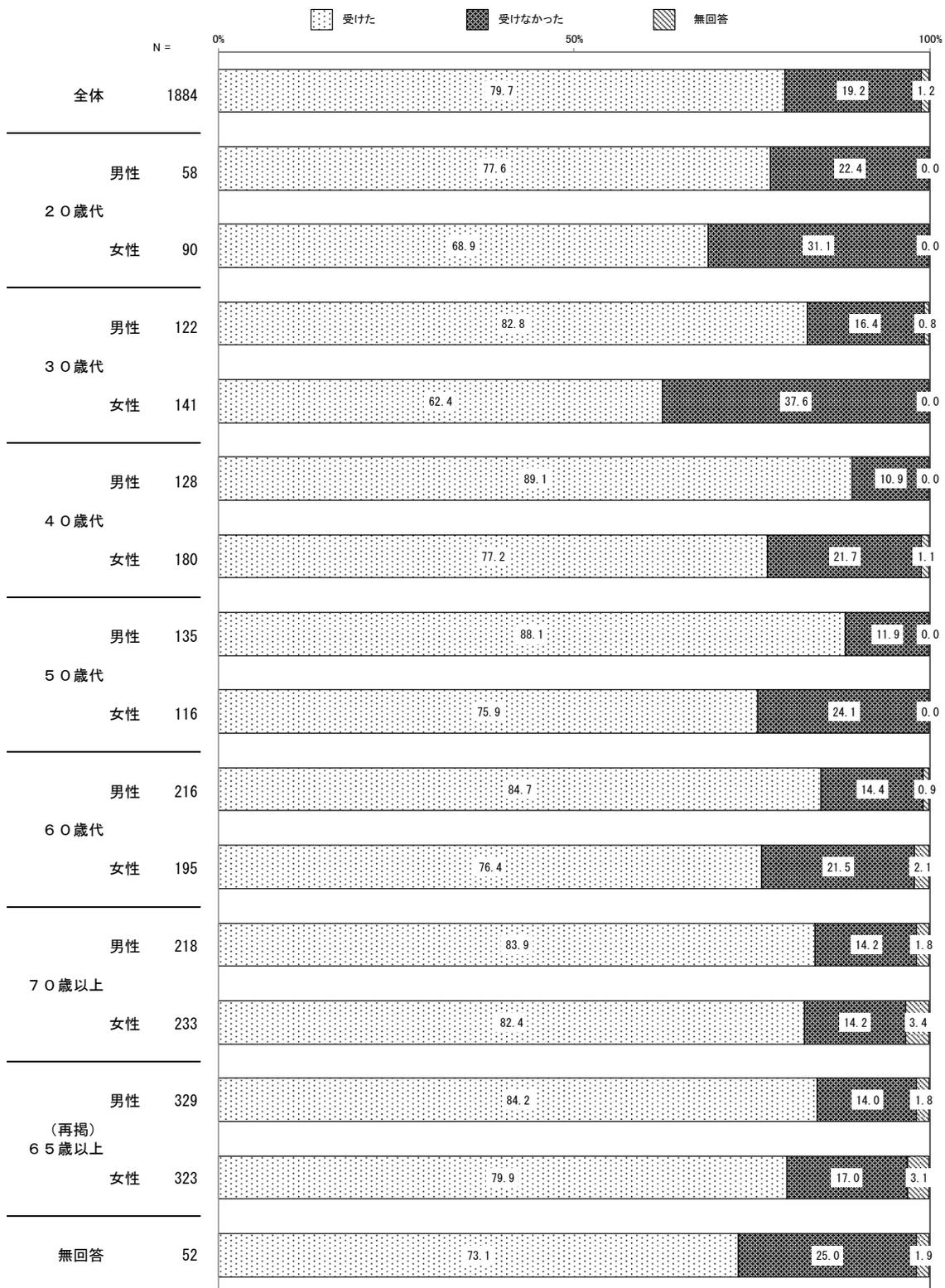
- ・過去1年間の検診や人間ドックの受診状況については、全体のおよそ8割が受診しており、性別でみると男性は85.0%、女性は75.1%と、男性は女性に比べ過去1年間の受診率が約10ポイント高くなっている。



- ・年代別では、20歳代30歳代でおよそ7割、40歳代以上でおよそ8割が過去1年間に健診や人間ドックを「受けた」と回答しており、30歳代から40歳代の間で10ポイント近く伸びている。



- ・性年代別で見ると、男性 40 歳代 (89.1%)、50 歳代 (88.1%) は約 9 割が「受けた」と回答しているのに対し、女性 20 歳代 (68.9%)、女性 30 歳代 (62.4%) の「受けた」人は 7 割に達していない。



7 健診結果

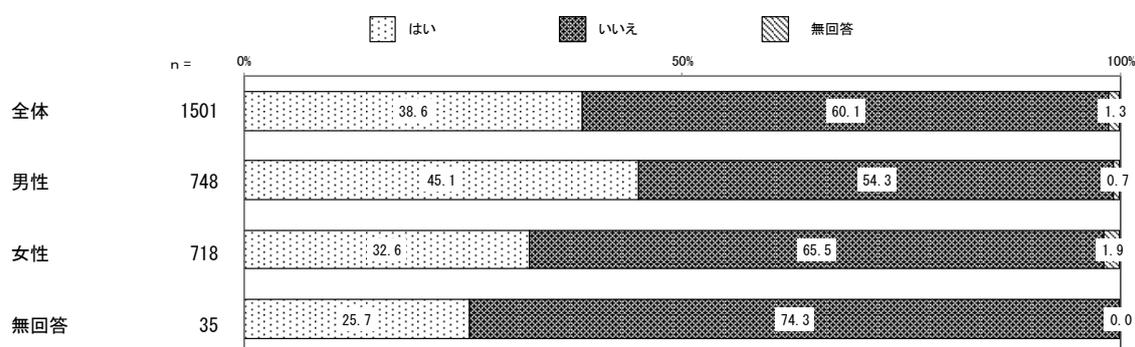
<問4で「1 受けた」と回答した方におたずねします。>

問4-1 健診の結果、肥満、高血圧（血圧が高い）、糖尿病（血糖が高い）、
血中の脂質異常（コレステロール・中性脂肪が高い）に関する指摘を受け、
最終的に医療機関での治療または保健指導を勧められましたか。

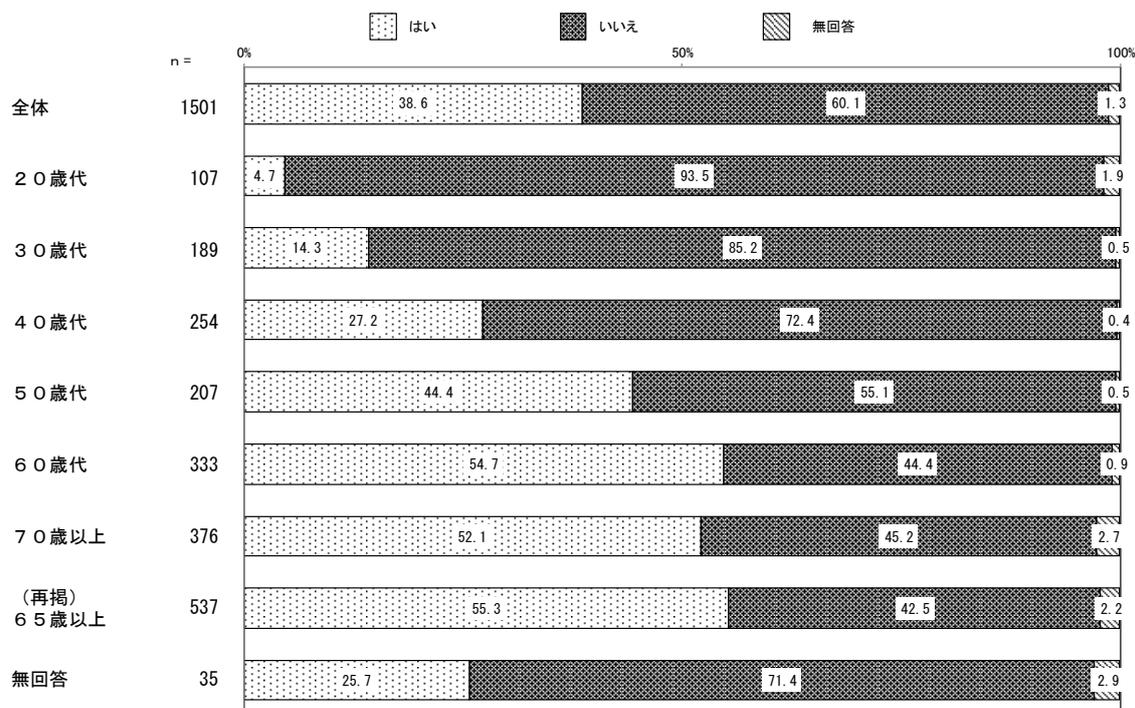
※検査目的の受診は除きます

1 はい 2 いいえ

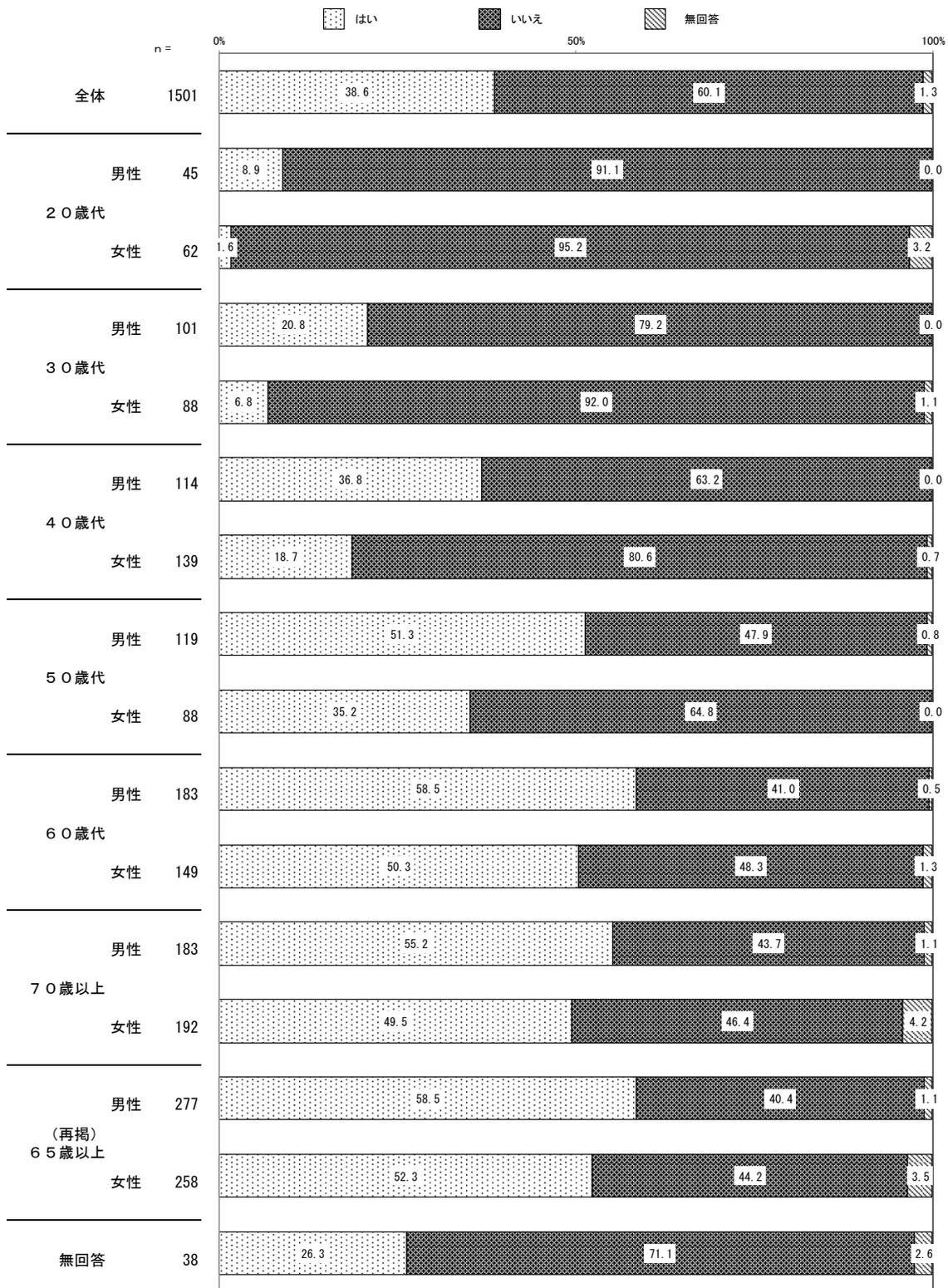
- ・健診後の治療や保健指導については、健診を「受けた」人のうち 38.6%が勧められており、男性では 45.1%と女性の 32.6%と比べ 12.5 ポイント高くなっている。



- ・年代別では、20歳代が 4.7%と最も低く、年代が高くなるにつれて上昇する傾向があり、60歳代以上では半数以上に達している。



・性年代別で見ると、どの年代でも男性の方が女性よりも高く、年代別に見ると 30 歳代(男性 20.8%、女性 6.8%)40 歳代(男性 36.8%、女性 18.7%)50 歳代(男性 51.3%、女性 35.2%) の男女間の差が大きくなっている。



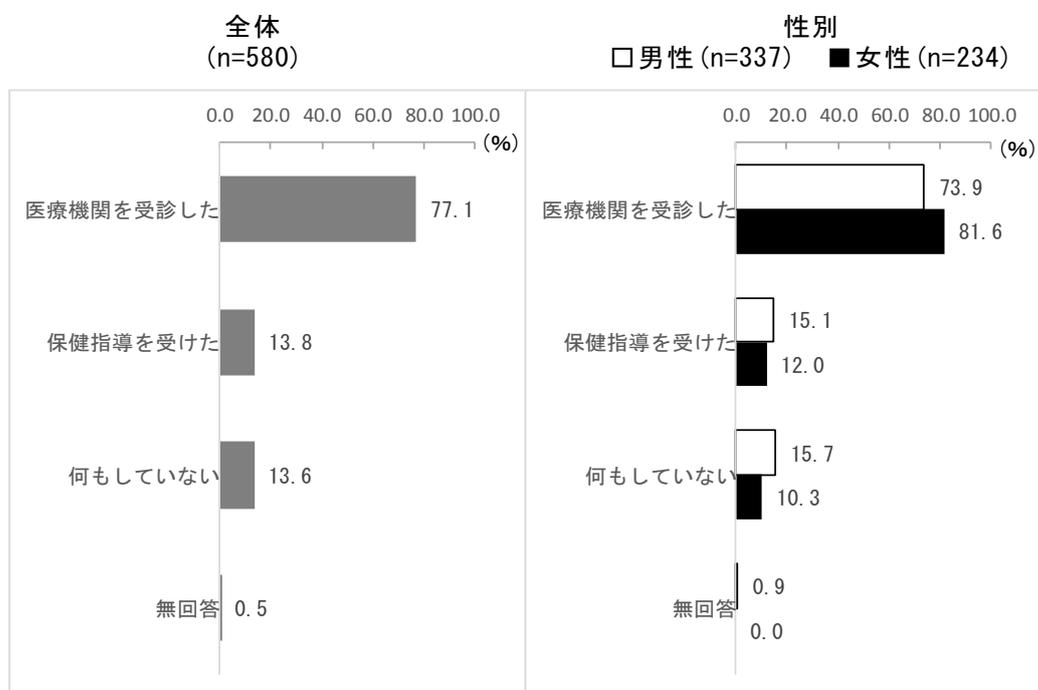
8 要指導・要医療者のその後の状況

<問4-1で「1 はい」と回答した方におたずねします。>

問4-2 その後、どうされましたか。(複数回答可)

1 医療機関を受診した 2 保健指導を受けた 3 何もしていない

- ・ 健診後の治療や保健指導を勧められた人が、その後どうしたかについては、全体77.1%が「医療機関を受診した」と回答しており、「何もしていない」は13.6%であった。
- ・ 性別でみると、「医療機関を受診した」のは女性(81.6%)の方が男性(73.9%)よりも高かった。



9 がん検診の受診状況

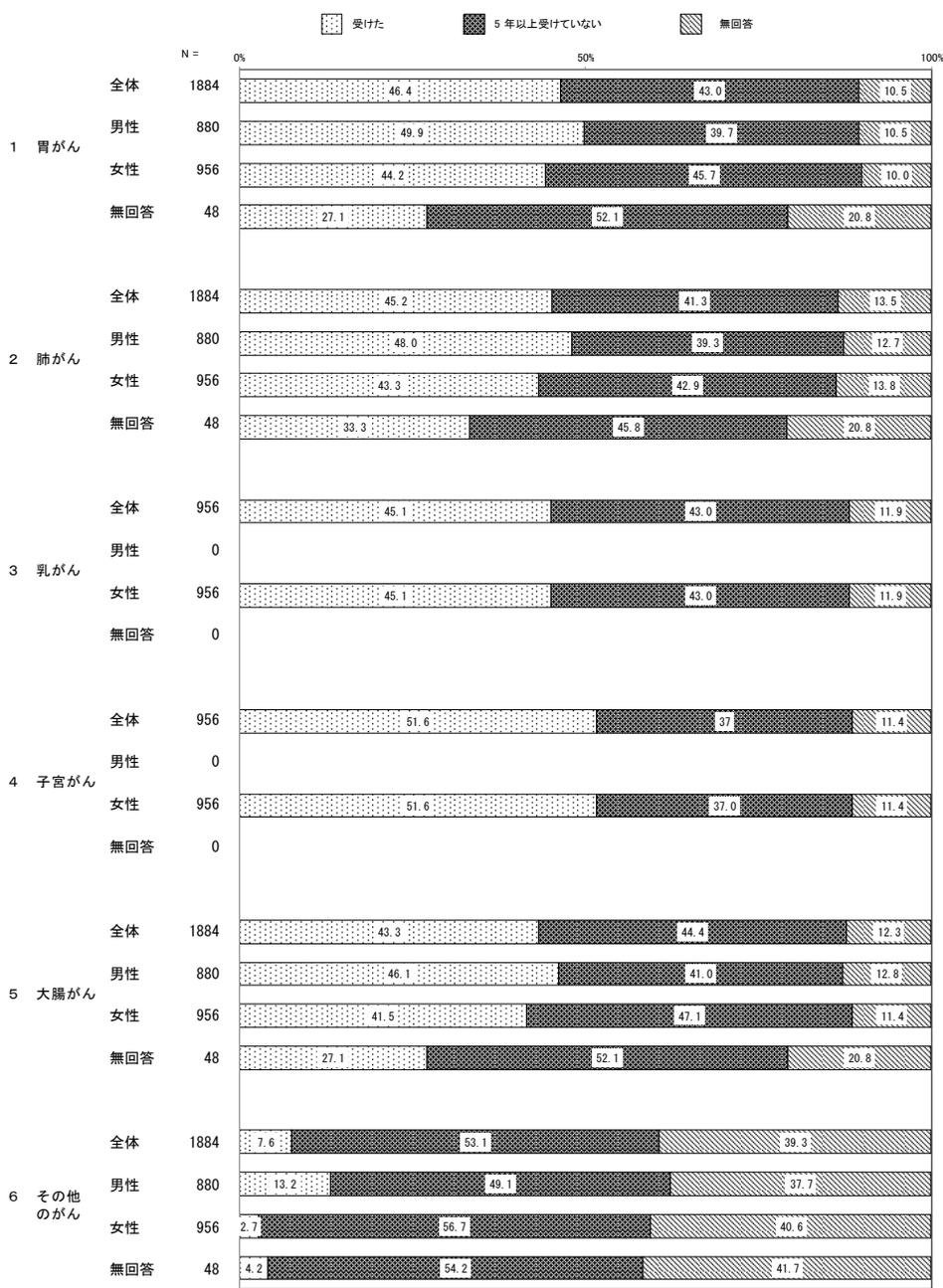
問5 あなたは、次のがん検診を受けましたか。1～6について、①または②のどちらかに○印をつけてください。①を選択した方は、いつ頃受けたか「ア」または「イ」のどちらかに○印をしてください。

1 胃がん 2 肺がん 3 乳がん 4 子宮がん 5 大腸がん 6 その他のがん

① 受けた (ア 1年以内 イ 5年未満) ② 5年以上受けていない

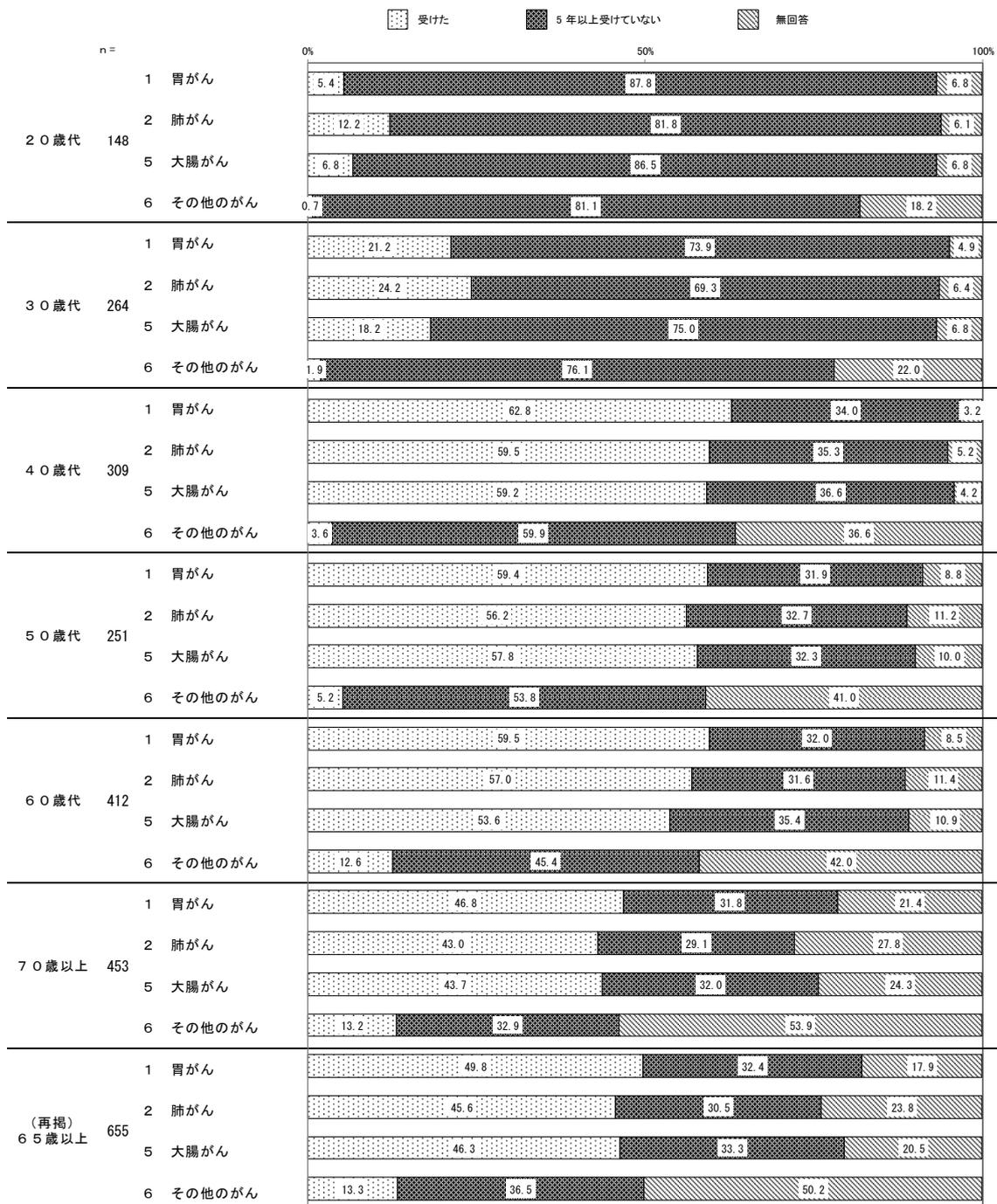
※ 3 乳がん、4 子宮がんについては2年以内

- ・がん検診の受診状況について、全体では「その他のがん」を除いたすべてのがん検診の受診率は4割以上あった。
- ・性別で見ると「胃がん」、「肺がん」、「大腸がん」は男性が女性より約5ポイント高く、「その他のがん」についても、10ポイント以上男性が高かった。

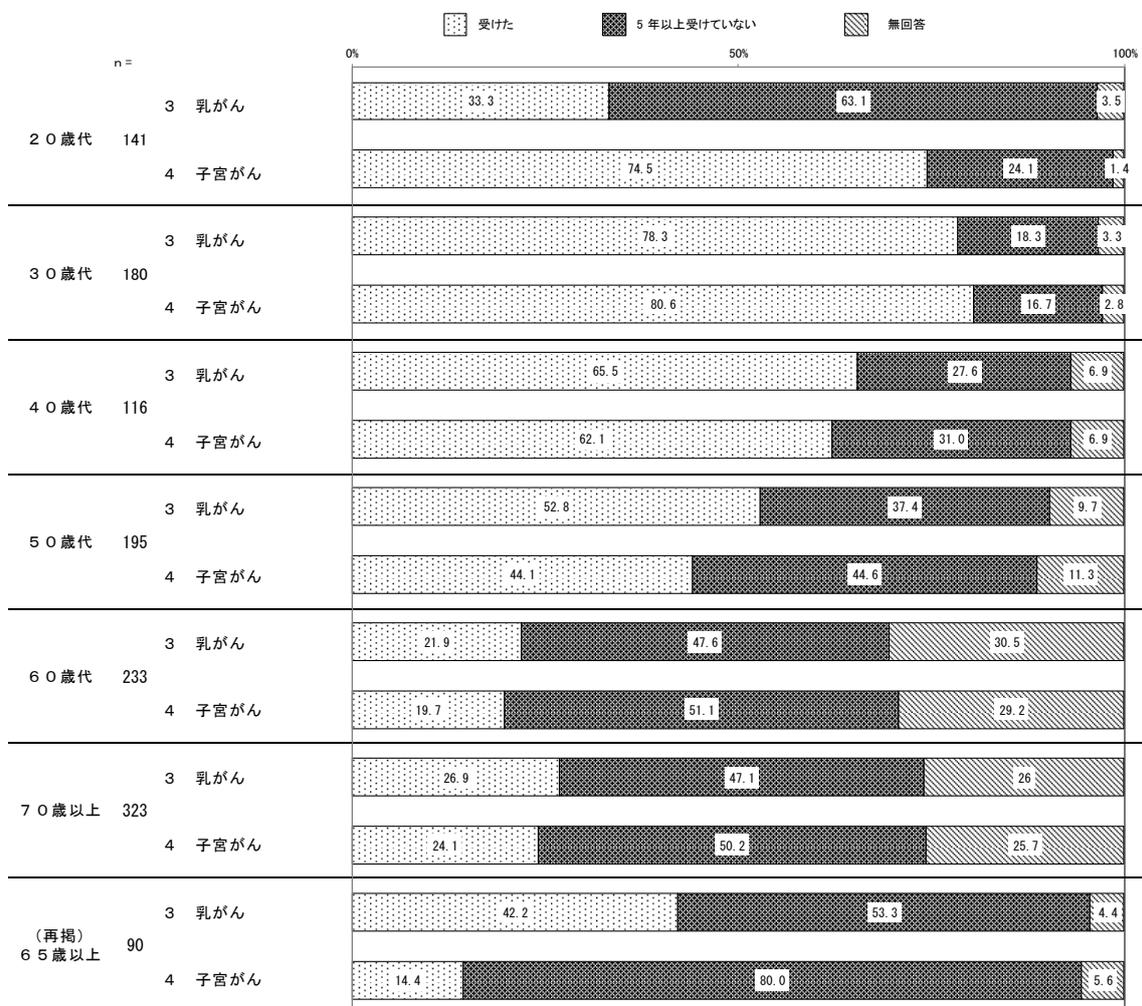


その他内訳	
前立腺	71
肝臓	4
子宮頸がん	3
膀胱	3
食道	2
膵臓	2
上咽頭	1
甲状腺	1
腎臓	1
直腸	1
悪性リンパ腫	1

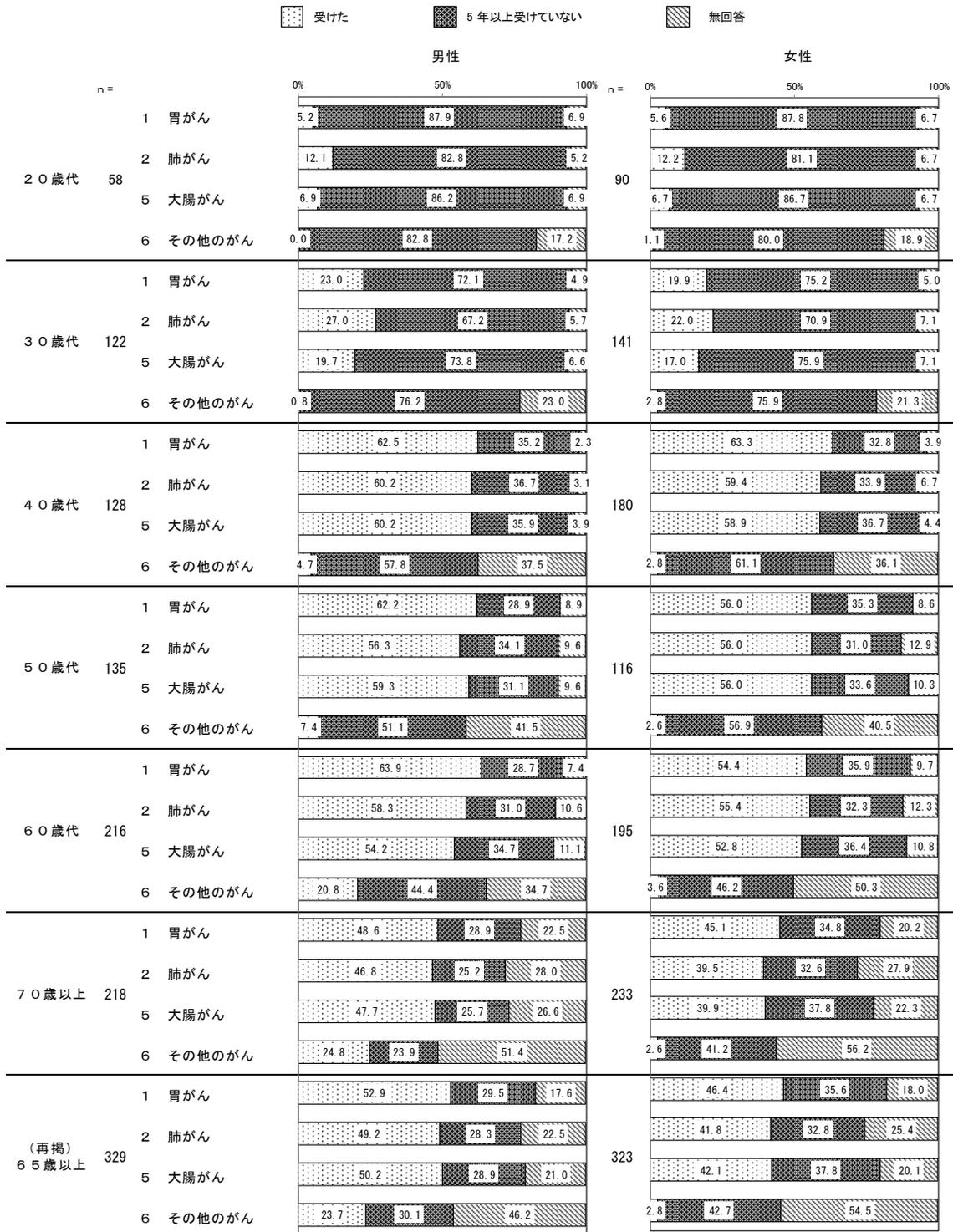
・年代別にみると、20歳代、30歳代ではどのがん検診も3割未満であるが、40歳代になると「胃がん」「肺がん」「大腸がん」の検診受診率が約6割と30歳代に比べ、40ポイント前後高くなっている。



・女性のみ対象のがんについて、年代別にみると、30歳代が「乳がん」(78.3%)「子宮がん」(80.6%)が約8割となっており、他の年代と比べもっとも高い検診受診率だった。

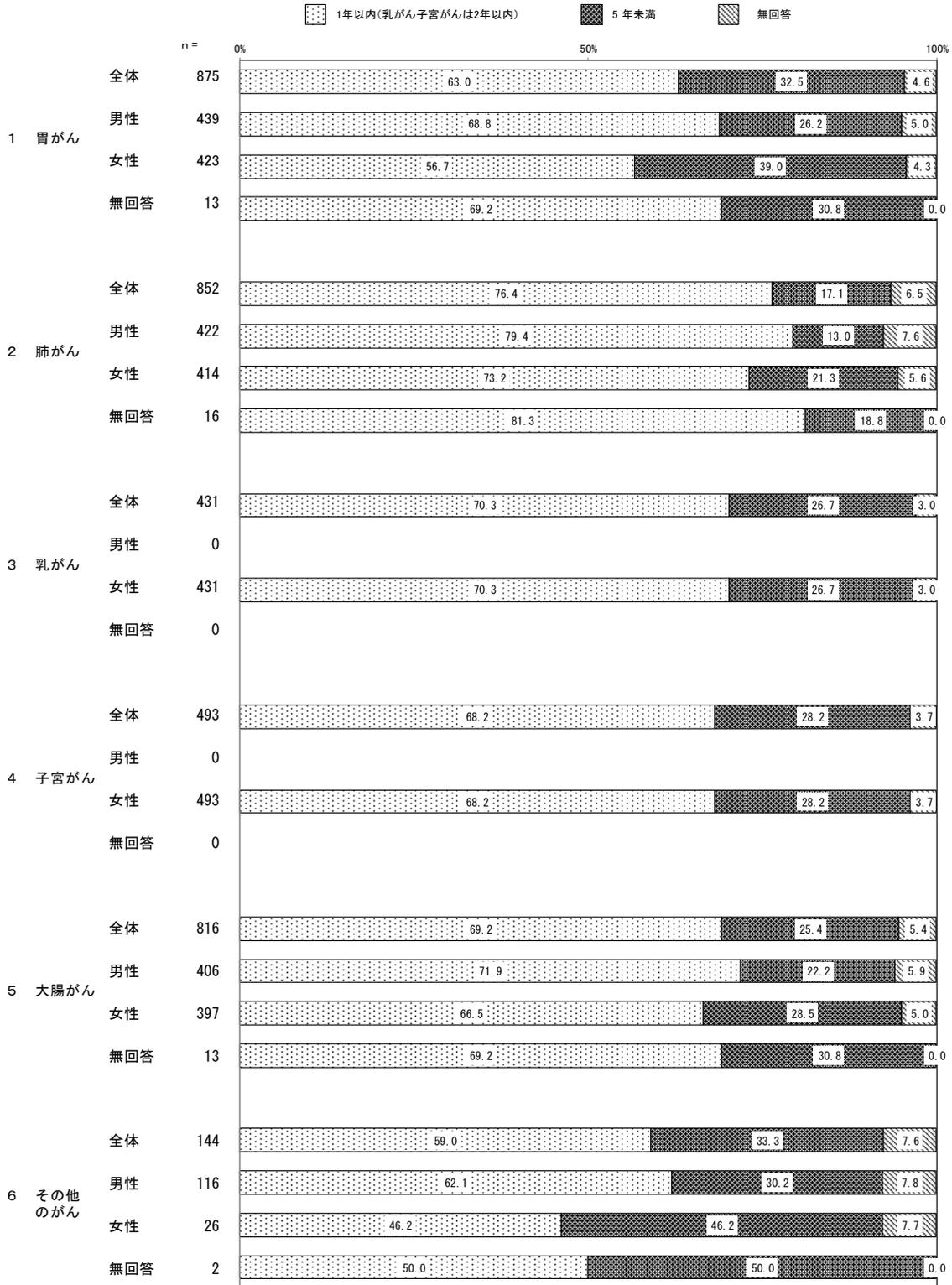


・性年代別にみると 20 歳代から 40 歳代までは各年代での男女の受診率に差は見られな
 いが、50 歳代以上の年代ではすべてののがんで男性の受診率が高くなっている。



受診時期

- ・がん検診の受診時期について、全体では「1年以内」の受診は「肺がん」が76.4%で最も高く、性別では女性のみ対象の「乳がん」「子宮がん」を除いたいずれのがんの検診でも男性が女性より「1年以内」に受診した割合が高かった。



10 がん検診受診のきっかけ

<問5でいずれかのがん検診を「① 受けた」と回答した方におたずねします。>

問5-1 どのようなきっかけで受けましたか。(複数回答可)

- 1 市町村や会社から案内が来たから 2 受診券(クーポン券)が送られてきたから
 3 保険会社などで人間ドックの補助を受ける制度があったから 4 かかりつけ医などに勧められたから
 5 自分の健康のために受けるのは当たり前だと思っているから 6 不安・心配だから 7 その他

- ・がん検診の受診のきっかけは、「市町村や会社から案内が来たから」が50.4%で最も高かった。
- ・性別でみると、「受診券(クーポン券)が送られてきたから」が男性(5.3%)よりも女性(20.0%)で高くなっている。

